「研究小集会 卵」の趣旨

長谷川 峯夫

独立行政法人 農業生物資源研究所

Significance of "Small Research-Discussion Meeting on Hen Egg"

Mineo Hasegawa

National Institute of Agrobiological Sciences

Keywords : hen egg, processing, nutrition, allergy, society**キーワード :** 鶏卵, 加工, 栄養, アレルギー, 研究会

1. 「研究小集会 卵」の立ち上げ

第56回大会(平成21年 名城大学)にて, 第1回研究小集会「食品と水」, 「大豆」, 「飲料」の3小集会で開催された。この研究小集会に参加し, 「卵」に関して, ぜひとも立ち上げたいとの思いに至った。早速, 岐阜大学名誉教授渡邊乾二先生とともに, 「研究小集会 卵」の立ち上げを企画委員会に提案した。

その結果, 57回大会(平成22年 東京農業大学)にて, 第2回研究小集会「食品と水」, 「大豆」, 「果汁」, 「卵」の4小集会となった。

鶏卵は日本で年間251万トン(平成21年度食料需給表 農林水産省)生産され, 自給率は96%で, 重要な食料である。鶏卵は料理の食材として用いられるほか, 卵加工品, マヨネーズ, サラダ・惣菜, パン・菓子類, 畜産加工品, 水産加工品等多くの加工食品の原料でもある。更には, 鶏卵から医薬品・化粧品材料(塩化リゾチーム, 卵黄リン脂質等)や, 食品機能材料(卵白ペプチド, 卵白リゾチーム, 卵黄レシチン, 卵殻カルシウム等)が生産されている。

このように, 重要な食料でありながら, 卵に特化した研究者・技術者の集りがなく, 交流が少ないように思われる。また, 競争的資金による研究プロジェクトも少ない。学会も日本食品科学工学会を始め, 日本農芸化学会, 日本畜産学会, 日本家禽学会, 日本家政学会, 日本調理科学会等多岐にわたっている。最近では, 卵アレルギーや鳥インフルエンザのように, 食品研究者, 技術者が今まで以上に卵に関して幅広い知識を必要としている。

こうしたことから, 鶏卵, 鰯卵等の卵に関する研究成果発表と研究者・技術者の交流を目指し, 「研究小集会 卵」を立ち上げた次第である。

2. 第1回「研究小集会 卵」の開催と次回の予定

第57回大会(平成22年9月3日 東京農業大学)にて第1回「研究小集会 卵」を開催した。九州大学副学長今泉勝己先生には「鶏卵の健康・栄養機能の新展開」, 京都大学准教授大日向耕作先生には「鶏卵タンパク由来の機能性ペプチド」を講演いただいた。生命の源ともいうべき鶏卵の栄養機能, 健康機能, 鶏卵成分に秘められた機能性ペプチドの発掘等を両先生より教授いただいた。

第2回「研究小集会 卵」は第58回大会(平成23年)で, 東京海洋大学教授崎山高明先生と宮城大学准教授石川伸一先生の講演を予定している。

「研究小集会 卵」(2010 東京農業大学)の会場

3. 「研究小集会 卵」の展望

今後次のような講演を計画している

- ・最新の卵加工技術
- ・卵の食品機能の研究（乳化・加熱ゲル等）
- ・卵の食品衛生
- ・鳥インフルエンザウイルス
- ・卵アレルギー研究の現状と卵アレルギーの低減化技術
- ・卵生産の現状と流通

研究小集会で、食品研究者、技術者が卵の幅広い知識が得られるよう、会員からの積極的な提案を世話人（渡邊乾二、長谷川峯夫）にいただきたい。

さらに、「研究小集会 卵」から「卵科学研究会」ともいえる常設の研究会に発展させることを願っている。

最後になりましたが、「研究小集会 卵」の実現に、田島眞会長、稲熊隆博企画委員長に支援いただき、また研究小集会へは財団法人旗影会（<http://www.nakashima-foundation.org/kieikai/>）の「学術研究集会助成」の協賛をいただき、感謝いたします。

文 献

- 1) 日本食品科学工学会第 57 回大会講演集, pp. 173-174, 東京 (2010).

(平成 23 年 5 月 17 日受理)